



# 全国高校ラグビー 県予選

〈第1日〉

第93回全国高校ラグビー大会県予選が21日、秋田市の八橋球技場で開幕した。初日は開会式に続き1回戦1試合を行い、大館鳳鳴が粘る秋田南を振り切り20-15で下した。きょう22日は、同球技場で2回戦2試合を行う。(加藤慶一郎)

## 鳳鳴、秋田南振り切る

▽1回戦  
大館鳳鳴 20 (1010) 150 15 秋田南  
▽30分ハーフ▽キックオフ 秋田南▽レフェリー 澤木

鳳鳴 20 0 10 20 0 10 20  
秋田南 0 0 0 0 3 0 0 15 15 計反11

大館鳳鳴が、秋田南の追い上げをかわし逃げ切った。前半10分、大館鳳鳴は敵陣ゴール前10メートルのラックから、CTB高橋がボールを持ち出してディフェンスを突破しトライ。20分には、右オーブからFB渡邊が抜けてトライを決めた。後半も2トライを追加。ディフェンスは勝負どころで踏ん張った。

秋田南は前半、ゴール前のタックルミスが失点につながった。

渡邊将太郎(同)もトライを奪いBKで10点のリードを奪った。後半は秋田南の反撃に遭い、残り5分で1トライ差まで追い上げられた。終了間際、

**きのこの結果**  
▽1回戦  
大館鳳鳴 20 15 秋田南  
**きょうの試合**  
▽2回戦  
能代工 (13・00) 男鹿工  
金足農 (14・30) 秋田

めた。直後にノーサイドの笛を聞くと、大館鳳鳴の選手たちはほっとした表情を見せた。

勝利にも選手は満足していない。「足を生かした突破力を発揮できず悔しい」と渡邊。23日の第1シード秋田工戦を見据え「強いチームと戦えることはうれしい。1トライを全力で奪いにいく」と闘志を燃やした。

### 最後まで粘りのプレー

○：後半は一進一退の好ゲームとなった開幕戦。粘り勝った大館鳳鳴の石木毅志監督は「意地を見せてくれた」と選手をたたえた。

「ゴール前のディフェンスがいないスペースを突くことができた」と先制トライのCTB高橋秀輔(2年)。FB

【秋田南―大館鳳鳴】前半10分、大館鳳鳴の高橋が先制のトライを決める





【金足農一秋田】後半18分、金足農のPR蒲生が左中間にトライを決める

# 金農、秋田に逆転勝ち

農は秋田に24-15で逆転勝ちした。第3日のきょう23日は、同球技場で2回戦の残り2試合を行い、4強が出そろ

(加藤慶一郎)



〈第2日〉

第93回全国高校ラグビー大会県予選第2日は22日、秋田市の八橋球技場で2回戦2試合を行った。男鹿工が能代工から9トライを奪い55-10で圧勝。金足

▽2回戦

金足農 24(17)5(10)15 秋 田

▽30分ハーフ▽キックオフ金足農

秋田 11(1)10(10)0(5)15(10)5

金足農 11(0)7(2)2(1)7(17)24(13)反10

農が、秋田に逆転勝ちした。金足農は、7-10で迎えた後半4分、敵陣ゴール前のラックからH.O.東海林が中央に飛び込み逆転のトライ。18分

には、敵陣ゴール前のラックからPR蒲生が左中間に持ち込んで突き放した。秋田は後半21分、PR吉田雄のトライで6点差に追いついたが、あと一歩及ばなかった。

最後まで諦めず攻め込む。第3シード金足農に最後まで食らい付いた秋田。惜しくも勝利には届かなかったが、逆転を許した後半も盛り返し見せ場をつくった。

秋田らしい最後まで諦めないラグビーを存分に発揮した。後半21分にPR吉田雄大(3年)が6点差に迫るトライを奪い、ワンチャンスで試

合をひっくり返せる展開に持ち込んで会場を沸かせた。「チームに迷惑を掛けてし

また」と目を赤くするSH加藤哲朗主将(3年)。後半24分、敵陣ゴール前10メートル付近で、ボールをジャンピングキックしようとした相手選手にタックルをしてみまい、シンビン(一時退場)を宣告され、そのままノーサイドを迎えた。

# 男鹿工、能代工を圧倒

男鹿工 55(26)29(10)10 能代工

代工▽レフエリ▽キックオフ能代工

男鹿工 5(2)0(29)4(3)0(26)2(0)0(10)後10(計)反14

前年からトライを重ねた男鹿工が、能代工を寄せ付けなかった。

男鹿工は前半3分、敵陣ゴール前8メートルで、相手のノック

オンしたボールをSH船木がい展開でトライを重ね、前半拾い、左隅に先制トライ。速を29-0とリード。後半も手

て入場し、大会関係者や観客に一礼する選手姿だ。日本の礼法と他者への敬意は、傷だらけになってもタフにプレーするラグビーのような競技にも表れていることに感銘を受けた。

会場の八橋球技場には柔らかな天然芝が敷かれ、競技環境としては高い水準にある。フィジィでも天然芝の球技場はあ

るがグラウンドが硬く、タックルされて倒れたときにけがをすることも多いことだ。フィジィは

次々にパスをつなぐランニングラグビーが主流。視野を広く持ち、もっと

パスをつないで相手守備ラインを崩すことも心掛けてほしい。

2回戦で秋田工(13-00)大館鳳鳴大館工(14-30)秋田中央

きょうの試合

男鹿工 55(26)29(10)10 能代工

金足農 24(17)5(10)15 秋 田

綱を緩めず4トライを奪った。能代工は、立ち上がりから守勢を強いられ、後半2トライを返すのがやっとだった。

ミス連続、修正へ奮起誓う。終始ゲームの主導権を握り、9トライを決めた男鹿工だったが、選手の顔は晴れなかった。柴田久寛監督は「初戦の硬さもあったが、それでもイーजीミスが多すぎた」と厳しい表情を見せた。

序盤から相手のプレッシャーを目標に掲げてきた。23日の

2回戦で秋田工が勝ち上がった。27日の準決勝でぶつかると、「しっかり修正しないと、勝ち上がれない」と柴田監督。安田主将は「次の試合までにもう一度チーム一丸となり、自分たちらしく元氣あふれるラグビーを展開したい」と奮



チエセ 観戦記

## パスつなぎ守備崩そう

フィジィ出身で、今季から社会人ラグビー・秋田ノーザンブレッツRF C(秋田NB)でプレーするチエセ・シリキスバ(25)の目に、高校生ラグビーのプレーはどう映るのか。本県の競技環境なども含めてラグビーの試合をみていく。

2009年に来日し、日本で高校生の試合を見るのは初めてだが、母国フィジィの大会との違いに驚いた。開会式で目に留まったのは、規則正しく行進し

4年時の昨季は関東大学リーグ戦3部優勝に貢献した。今季から秋田NBのナンバー1。秋田魁新報社に勤務。

1、2回戦計3試合を見て感じたのは、陣地を稼ぐためのキックでプレーが途切れるパターンが多いことだ。フィジィは



# 秋田工 男鹿工

## 4強出そろろう

### 金足農 秋田中央

第93回全国高校ラグビー大会県予選第3日は23日、秋田市の八橋球技場で2回戦の残り2試合を行った。秋田工は大館鳳鳴に122-0、秋田中央は大館工に96-0でそれぞれ圧勝し、



<第3日>

4強入りを決めた。準決勝は27日、同球技場で午後1時から秋田工-男鹿工、同2時半から金足農-秋田中央を行う。

(加藤慶一郎)

# 中央16トライ 大館工に圧勝

▽2回戦  
秋田中央 96(5145-0)0 大館工  
▽30分ハーフマキックオフ大館工  
工レフェリー伊東  
中央75045 93051 計反967  
大館工0000 0000 03  
秋田中央は16トライを重ね、大館工を寄せ付けなかった。

井正紀田晃谷田坂航本田崎田  
川部藤山佐熊吉保佐武松石柿池  
寒渡左山佐熊吉保佐武松石柿池  
大館工FW藤原(寒川井) 藤原(寒川井)  
中野(三浦) 中野(三浦)  
村藤隆星川田弘藤原藤原岡崎井松  
藤原(寒川井) 藤原(寒川井)  
上野伊高石花高佐赤近田片田藤高  
▽交代(中)菅原(寒川井) 菅原(寒川井)  
渡部和(佐藤紀) 徳原(佐藤航)  
船木(松本) 宮川(渡部正) 宮川(渡部正)  
門間(熊谷) 鈴木(池田) 鈴木(池田)  
向(柿崎) 三浦(山田) 三浦(山田)

もFW、BKが一体となって前に出てトライを奪い、前半を45-0でリード。後半は9トライを決め、大館工に決定機を与えず完封した。大館工は、タックルが甘く大量失点につながった。諦めず、果敢にタックル

○秋田中央に完敗を喫し走り抜け先制トライ。その後大館工。「持っている力は



【大館工-秋田中央】前半5分、秋田中央のWTB柿崎が先制のトライを決める

# 秋工猛攻、鳳鳴下す

▽2回戦  
秋田工 122(5765-0)0 大館鳳鳴  
▽30分ハーフマキックオフ大館鳳鳴  
レフェリー佐藤  
秋田工TGP前 960057 計反1223  
大館鳳鳴TGP後 0000 01  
秋田工115065 960057 計反1223

全部出し切った。全国で勝つために練習しているチームとの差」と明石渉監督は選手をねぎらった。

タックルや当たり負けしない体力強化を目標に、冬に走り込みや筋力トレーニングを

きのうの結果  
秋田工 122-0 大館鳳鳴  
秋田中央 96-0 大館工

たるタックルを実践できた」とCTB片岡潤二主将(3年)は胸を張った。

部員は22人。3年生6人が中心となり、1年間チームを引っ張ってきた。片岡主将は「このメンバーでプレーできたことは自分の誇り。1、2年生には自分たちよりもっと上のステージで戦ってほしい」と、後輩に勝利を託した。

後半から出場したWTB藤原一希(1年)は4トライを奪った。「公式戦の出場経験がなく、プレッシャーがあった」という藤原だったが、持ち前のスピードでディフェンスを置き去りにした。

黒澤光弘監督はこの試合を九十点と評価。「ミスは少なすぎ、リザーブのレベル上昇など、いい形でスタートを切れた」と手応えを感じていた。

展開についていけず猛攻を止められなかった。

100点ゲームで発進

○：昨年花園8強メンバー、100点ゲームで発進した。

秋田工は攻守で盤石だったが、ラックに横から入るオフサイドが見られた。試合に熱中すると簡単なことを忘れてしまいがちだが、競った試合では安易なミスや反則が命取りになる。

強豪校でも、一つもミスのない完璧な試合をするのは難しい。ミスを反省して、パスやキックの基本的な技術をさらに磨けるかどうか、優勝校と他のチームの違いになってくる。

完全した大館鳳鳴は、相手ボールのラックにターンオーバーを狙って働き掛けていけば、もっとチャンスをつくる事ができたのではないかと。

秋田工が次に対戦する男鹿工は、初戦を見た限り、1人がタックルされても後のサポートがしっかりしており、パスをつなぐ力のあるチーム。ルーズボールへの反応、守備を整えるのも早い。男鹿工にもチャンスはあるので、思い切ってトライを狙ってほしい。楽しみなカードだ。

(チェセ・シリキスバ、秋田ノーザンブレッツ)

## チェセ観戦記



### 安易なミス、命取りに

大会第3日は、優勝候補の筆頭である秋田工が初戦を迎えた。秋田工はスピードに乗ったランニングラグビーが特徴的なチーム。15人それぞれが持ち場で役割を果たし、流れに乗った試合運びを見せてくれた。接触プレイでのボールの支配、空いたスペースへの素早い走り込み、スクラムやラインアウトでの圧力、パスの連係など全ての完成度の高さがスコアに表れた。

秋田工は攻守で盤石だったが、ラックに横から入るオフサイドが見られた。試合に熱中すると簡単なことを忘れてしまいがちだが、競った試合では安易なミスや反則が命取りになる。強豪校でも、一つもミスのない完璧な試合をするのは難しい。ミスを反省して、パスやキックの基本的な技術をさらに磨けるかどうか、優勝校と他のチームの違いになってくる。

(チェセ・シリキスバ、秋田ノーザンブレッツ)





県予選 <第4日>

# 決勝は秋工 VS 中央

第93回全国高校ラグビー大会県予選第4日は27日、秋田市の八橋球場で準決勝を行った。秋田工は序盤からトライを重ねて終始優位に立ち、男鹿工に67-0で圧勝した。秋田中央は前半、金足農にリードを許したが、後半4トライを返し35-22で逆転勝ちした。全国大会出場を懸けた決勝は、11月9日午後2時5分から同球場で行う。

(加藤慶一郎、長田雅巳)



【金足農―秋田中央】後半4分、秋田中央のFL熊谷が逆転のトライを決め12-10とする

## 中央 粘る金農振り切る

秋田中央が逆転勝ちを収め、2年ぶりの花園出場に王手をかけた。粘る金足農の反撃をしのぎ、ノーサイドを迎えると、フィフティーンは両手を高く突き上げた。前半2分に先制トライを挙げたが、その後は緊張と重圧から体が動かさず受けに回った。追加点を得られず「中だるみしてしまった」と、ナンバー8保坂瑠土主将(3年)の隙を突かれた21分、ペナルティキックを決められ失点。終了間際には、ラインアウトミスから逆転トライを喫した。古谷和義監督は「攻めが単純で、せつかくの好機も反則でつぶしていた」。ハーフタイムにはFW陣に、積極的に得点を奪いにくく奮起を促した。

### 多事多事

秋田中央は前半、7-10とリードを許したが、後半はFWの突破でリズムをつかみ、4分にFL熊谷のトライで逆

▽準決勝

秋田中央	35	7-10	22	金足農
中央	11	0	7	4
金足農	11	10	2	10
後半	22	計	35	反

### きのうの結果

▽準決勝

秋田工	67	0	男鹿工
秋田中央	35	22	金足農

が、粘る金足農を振り切り、5年連続の決勝進出を決めた。

秋田中央は前半、7-10とリードを許したが、後半はFWの突破でリズムをつかみ、4分にFL熊谷のトライで逆

井正田 晃谷 田坂 航 藤 本 崎 田  
川部 藤 藤 藤  
寒渡 佐山 佐熊 吉保 佐武 松石 柿池  
中 金  
金足農 佐々木 健 塚 玉 坂 雄 原 井 廣 田 根  
生 林 川 木 健 塚 玉 坂 雄 原 井 廣 田 根  
浦 東 石 船 佐 石 小 保 々 藤 細 佐 鎌 関  
▽交代【金】佐藤 鎮(石川)中  
土橋(石田)、菅原(寒川井)、  
渡部和(佐藤紀)



【秋田工―男鹿工】前半6分、秋田工のFL佐々木凛が先制のトライを決める

金足農は前半29分、相手ボールのラインアウトを奪取し、FL佐藤健がディフェンスを引きずりながらトライし勝ち越し。運動量が落ちた後半、簡単に防御ラインを突破されてトライを奪われ、流れを取り戻せなかった。

▽準決勝

秋田工	67	36	0	0	男鹿工
秋田工	30	分	ハーフ	0	0
男鹿工	0	0	0	0	0
秋田工	6	3	0	3	6
男鹿工	0	0	0	0	0
秋田工	6	3	0	3	6
男鹿工	0	0	0	0	0
秋田工	6	3	0	3	6
男鹿工	0	0	0	0	0

## 秋工 序盤で主導権 男鹿工を圧倒

鹿工を圧倒した。前半6分、秋田工は敵陣ゴール前のラックから右に展開し、最後はFL佐々木凛のトライで先制。17分にはラックからFWが押し込んで12-0とするなど、前半で6トライを挙げ36-0で折り返した。後半もFWの縦への突破と、走力のあるBKの展開でトライを重ねた。男鹿工は、最初に突進する選手が防御陣に押し戻される

場面が目立ち、ゴールラインを割れなかった。「リズム悪い」と課題指摘 ○：接点での強さを発揮した秋田工が、男鹿工を寄せ付けない完勝だった。「FW戦で圧倒し、ゲームを優位に進めることができた」と、先制トライを決めたFL佐々木凛平(3年)は納得の表情を見せた。密集戦でFWが激しく圧力をかけて相手の前進を食い止めた。再三のターンオーバーでボールを奪った。PR工藤博樹(同)が「集中力を切らさず、押し込めた」というスクラムやラインアウトのセットプレーでも優位に試合を運び、計11トライを奪取。相手に一度もゴールラインを越えさせなかった。男鹿工の安田将平主将(同)が「相手FWの集散が早く、流れをつかめなかった」と悔しがった。ただ、ラックからボールを受けたH陣が相手防御につぶされる場面や、BKのハンドリングミスも目立った。黒澤光弘監督は「H陣と両センターとの関係が取れていない。攻撃のリズムが悪かった」と課題を指摘。村井選介主将(同)は「試合で出たミスを修正し、決勝ではFWとBKが一体となったアップテンポのラグビーを展開したい」と力を込めた。



# 秋田工 連覇

## 65度目「花園へ」

第93回全国高校ラグビー大会  
 会期予選最終日は9日、秋田市の八橋球技場で決勝を行い、秋田工が秋田中央を20-10で下して2年連続56度目の優勝を飾り、65度目の全国大会出場を決めた。5年連続の



〈最終日〉

## 粘る中央を振り切る

▽決勝

秋田工 20 (155-100) 10 秋田中央

▽30分ハーフ▽キックオフ▽秋田工▽レフェリー▽河野

中央 0000 11110 107

TGP前 TGP後 20計反

秋田工 1005 21115 16

前半にリードを奪った秋田工が、後半の秋田中央の反撃をかわし逃げ切った。秋田工は前半、秋田中央の堅いディフェンスを攻め切れず苦しむ展開。17分、ハーフライン付近のラックから右に展開し、FB横田が縦に抜け

近で相手のミスからボール奪った横田が、60秒を独走してライを決めた。秋田中央は、秋田工の堅実なディフェンスの前に、後半の1トライに抑えられた。



【秋田工-秋田中央】前半17分、秋田工のFB横田(左)が相手ディフェンダーを振り切り、先制トライを決める



2年連続56度目の優勝を果たした秋田工

栄光

2年連続56度目の優勝

秋田工

ノーサイドの笛が鳴ると秋田工は喜びを表現し、雄たけびを上げた。両校一進一退の攻防を見せたライバル対決。笛

## 執念のトライ、勢い生む

が鳴ったとき、本当に安心した」と話すWTB村井遥介主将(3年)のほっとした表情が、厳しい戦いを物語っていた。秋田中央の組織的なディフェンスに苦しんだ。我慢し切れずにペナルティーを連発。ハンドリングミスも

## 一進一退 ライバル対決

重なり、前半は秋田中央にボールを支配される悪い流れ。それでも、速い出足と、低いタックルで秋田中央の攻撃を防いだ。「流れを変えたかった」というFB横田祐哉(3年)。17分にステップを踏んでディフェンスをかわして先制トライを決めると、チームはリズムをつかんだ。後半に2トライを加え

ディフェンスも踏ん張り、攻守で底力を見せた。横田の「絶対に花園に出たかった」という執念が、チームに勢いを与えた。黒澤光弘監督は「お互い手の内を知っているのに、厳しい試合は想定内だった。ただ、パスの精度が悪

くチームが目指す速いテンポのラグビーができなかった」と振り返る。昨年の優勝メンバー9人、高校日本代表候補4人を擁し、「タレント軍団」と称される今年の秋田工。2回戦、準決勝は圧倒的な攻撃力を見せたが、全国制覇を目指す

チームとしては、しぶい内容の決勝になってしまった。「このままでは全国で勝てない」と村井主将も自覚する。ミスの多さ、接触プレーの弱さを反省し「課題が見つかり良かったと捉えたい。全員で意識を高くもって練習していく」と誓った。正月までどの程度成長を果たせるのか。全国制覇から遠ざかり、26年になる。(加藤慶一郎)

## チエセ 観戦記



競る展開となった決勝戦。結果は秋田工の連覇に終わったが、試合内容は、どちらが勝ってもおかしくなかった。秋田中央は前半後半通してターンオーバーを多く奪い、好機を作った。トライまで持ち込めなかったのは、グラウンドをワイドに使っていなかったから。ラックから持ち出してフォワードがサイドを突くことに固執した。ラックサイドの守備が固い秋田工を最後まで崩せなかった。

## グラウンド、広く使おう

反対に秋田工は、左右にパスをつないでグラウンドをワイドに使った。この日の3トライは、いずれも相手を左右に揺さぶって奪ったものだった。秋田中央の守備陣を動かし、手薄になったスペースをうまく突いた。秋田工は、秋田中央に足りなかったプレーを展開した。

ただ、秋田工は反則が多すぎた。前半で6、後半で10の反則を犯したことは課題だ。反則は相手にチャンスを与える行為。秋田工は、左右にパスをつないでグラウンドをワイドに使った。この日の3トライは、いずれも相手を左右に揺さぶって奪ったものだった。秋田中央の守備陣を動かし、手薄になったスペースをうまく突いた。秋田工は、秋田中央に足りなかったプレーを展開した。

為。チームのことを考え、ノット・リリース・ザ・ボールのような反則は慎むべきだ。また、トライを決めた後で、秋田中央のキックオフに対する反応が遅く、相手にボールを取られたことも気になった。基本的なプレーを見詰め直してほしい。決勝には多くの観客が詰め掛け、立ち見もいた。今は野球やバスケットボールなど他競技に押されているが、ラグビーは秋田では昔から人気のスポーツだと聞いている。秋田工が花園で活躍することで、秋田のラグビー熱に再び火をともしたい。(チエセ・シリキスバ、秋田ノーザンブレッツ)

## 試合展開は上出来 攻撃で詰め切れず

2年ぶりの花園切符に一步届かなかった。秋田中央のゲームプランは、秋田工の攻勢をしのぎ、ロースコアで得点機をうかがう展開。思惑通りにディフェンスで踏ん張ったが、主導権を奪うには至らなかった。

統率のとれた守備は最後まで崩れず、秋田工に大量点を許さなかった。「試合展開としては上出来だった」と古谷和義監督。だが攻勢に転じては詰め切れない。ナンバー8保坂瑠士主将(3年)は「モールから展開をつくることは

できた。得点できなかったのは相手の力が上だったということ」、古谷監督も「スクラムやモール、ラックの部分で上回れなかったのがスコアに出た」と振り返った。

試合終了後、選手たちは立ったまま輪をつくり涙を流した。「新チームには気持ちの面を強くし、他校を圧倒するようにしてほしい」と保坂主将。後半29分、ラックからチーム唯一のトライを決めたH0渡部正一(2年)は「逆転への流れをつくろうと思って飛び込んだ」と話し、「スピードを上げ、先輩たちの思いを受け止めて来年は花園に出る」と飛躍を誓った。(小林智彦)



優勝を逃し、肩を落とす秋田中央の選手たち